

新潟・屋敷遺跡

いことから、平安時代初期の遺物群かと思われる。同時期の遺物としては、須恵器の外、木製盤、椀、匁一張などが出でていている。

8 木簡の釈文・内容

所在地 新潟県北蒲原郡中条町大字大塚

調査期間 二〇〇二年(平14)八月~九月

発掘機関 中条町教育委員会

調査担当者 吉村光彦

遺跡の種類 旧河道

遺跡の年代 四世紀~九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(中条)

調査地は平野の中央部に立地するが、河川沿いに位置する遺跡と考えられる。今回の調査は県営圃場整備事業に伴う水路部分の調査で、幅三mの細長い調査区を設けて実施した。古墳時代後期を中心とする遺物が出土したが、遺構はほとんどみつかっておらず、遺跡の性格は不明である。

木簡はすべて幅二二mほどの川跡から出土した。小泊産須恵器が出土していな

考へられる。今回の調査は県営圃場整備事業に伴う水路部分の調査で、幅三mの細長い調査区を設けて実施した。古墳時代後期を中心とする遺物が出土したが、遺構はほとんどみつかっておらず、遺跡の性格は不明である。

(1) は三片に分かれおり、下端の切断部分は刃物を入れて折ったものである。上下及び右側面を欠いている。一名分の人名(女性)を列記している。(2)は上下及び左側面を欠いている。物品の収納にかかるものかと思われる。(3)は下端及び両側面を欠いている。表裏ともに墨痕が認められるが、判読できない。(4)は曲物の底板。墨痕は比較的明瞭だが、釈読できない。なお、釈読は、長岡技術科学大学の相沢央氏のご教示によつた。

(水澤幸一)



長径150×短径139×厚8 081



(131)×(9)×2 081



(64)×(24)×4 081



(184)×(19)×5 081